

제 1 회 전국 대학생 일본어 번역대회

일한번역 문제 (1 교시)

수험번호		성명	
------	--	----	--

<주의사항>

1. 감독자의 시험시작 지시 전까지는 문제지를 펴서는 안됩니다.
2. 시험시작 지시 후에는, 먼저 윗 칸의 수험번호와 성명을 기입하십시오.
3. 본 문제지는 시험종료 후에 자유롭게 가져가실 수 있습니다.

●일시 : 2013 년 10 월 26 일(토)

●장소 : 서울 대명중학교 / 부산 광무여자중학교

주최 : 사단법인 한일협회

후원 : 주한일본대사관 공보문화원,

독립행정법인 일본국제교류기금 서울문화센터

협력 : 사단법인 부산한일교류센터

협찬 : (주)한국히타치, (주)해외교육사업단,

관서외국어전문학교 일한통번역과, 동경외어전문학교 일한통역과

<1 교시 일본어→한국어 번역 문제>

問題 1> (25 点)

歴史を学ぶ意義とは何であるのか。E. H. カーによれば、「歴史は、現代と過去との対話である」という。すなわち、歴史は単に過去の記録の集積ではなく、むしろわれわれ現代の世界に生きる者たちにとって有意味であるがゆえに、問題となるものである。またわれわれが日々生活を送り、絶え間なく生成を繰り返して行く現在の歴史的事実は、決して過去の歴史と隔絶したものではなく、必ず過去との関係性を保持している。

したがって、歴史は「現在」の社会が変転し、政治、経済、社会制度、文化等々が変容するたびに新しい意味を付与されていく。歴史を学ぶ際にはそのことに留意すべく、現在と過去との関係性についての目配りを怠らないようにすべきである。

さて、それではわれわれが依って立つ現代の世界はいかなる様相を帯びているのか。グローバル化や情報化の進展によって、世界各地の距離感は日々短くなってきている。多国籍化した企業は国境を越えて活動し、物流や人の移動は加速化し、経済の相互依存は深化し続けている。

このような中、従来は国民国家の内部でのみ考えられてきた問題も、ますます世界規模で捉えなおさなければならなくなっている。たとえば、今日の世界におけるエスニシティ・都市・開発・工業化・食糧・人権・核拡散・エネルギー・女性やマイノリティのエンパワーメント等はもはや国家の枠組み内部においてだけでは考えられない問題である。

<出展：東京法令出版、『日本留学試験用テキスト テーマ別総合科目』より>

問題 2> (25 点)

中国のバブルが崩壊した場合、日本への影響はどのような形で生じ、どの程度のものとなるだろうか？不良債権化する可能性が高いのは理財商品だが、日本の個人や金融機関のこれへの投資はほとんどないだろう。したがって、それが不良債権化しても、直接の影響を受けることはないだろう。

これは、リーマンショックの時と同じ状況だ。日本の金融機関の、モーゲッジの証券化商品への投資はほとんどなかった。だから、直接の影響はなかった。当時の経済財政担当相が「蜂がさした程度」と言ったのもそのためだ。少なくとも 2008 年の夏頃まで、日本では米国の金融危機が対岸の火事だと思われていた。

しかし、リーマンショックは、経済の屋台骨を揺るがすほどの甚大な影響を日本に与えたのである。影響は、貿易を通じて生じた。自動車を中心として日本の対米輸出が急減し、結果的には戦後の日本で最大級の経済危機になったのである。

中国のバブルは、ある意味では米国のバブルの継続だ。米国でのバブル崩壊に対応して中国が景気刺激策を取り、その結果が今の状態だからだ。つまり米国住宅価格バブルに端を発した 21 世紀の世界的経済変動は、いまだ収束していないと言える。

＜出典：週刊東洋経済、2013 年 9 月 28 日号より＞

問題 3＞（25 点）

濃尾平野を雄大に流れる大河、木曽三川。その流域面積は実に 9100 平方キロメートル。日本で 5 番目の大きさを誇るこの河川が、古来、交通の難所となっていたことは想像に難しくない。こうした自然の障壁は、言語の伝播においてどんな役割を果たすのか。

方言を特徴づける重要な要素に「アクセント」がある。共通語を含む「東京式アクセント」と、京都・大阪を中心に広がる「京阪式アクセント」の境界を探ってみよう。

名古屋駅から近鉄名古屋線に乗り込み、西南へ向かう。木曽川手前の弥富駅。ここでは東京式アクセントが使われる。木曽川を渡り三重県の長島駅へ。ここでもアクセントは変わらない。さらに南西、揖斐川を越えて桑名駅。ここから突如京阪式アクセントが表れる。つまり、アクセントの東西境界は、木曽三川の最も西側、揖斐川にあるということだ。

「語彙」についてはどうだろうか。「まぶしい」の方言分布を見れば「ヒドロイ」「ヒドルイ」系が愛知側、「マバイ」「ママイ」が三重側に分布し、その中間に「マバユイ」「メバユイ」系が錯綜していることが分かる。

日本の方言区画形成において、自然の難所・木曽三川がもたらした影響は、決して小さくなさそうだ。

＜出典：昭文社、『なるほど知図帳 日本 2012』より＞

▶ 다음 페이지에 계속 →

問題 4＞（25 点）

無数ともいえるキリスト教聖人の中でも、十三世紀前半のアッシジで活躍した聖フランチェスコはまさに別格の人気を誇る。

富裕な織物商人の息子に生まれ、仲間と羽目を外して遊んだり戦争で捕虜になったりの体験を経て、二十歳ころ、「わたしの家を建て直しなさい」との神の声を聞いて古い教会を修理し、無一物の生活へ入った（おぼっちゃまからの謎の転身は、ちょっと釈迦に似ているかも）。

フランチェスコは生前からすでに神聖視されており、エピソードには事欠かない。小鳥たちへの説教、悪魔との戦い、石からの泉噴出、両腕に幼子イエスの出現など、多く絵画化されている。また聖遺物を欲しがると人々に歯をねだられ、一本ずつ与えているうち、ついに歯無しになってしまったとも伝えられる。崇敬されるのも大変なことなのだ。

ベッリーニによる本作は、晩年のフランチェスコが洞窟にこもって修行している時、天使があらわれて、イエスと同じ両手両足脇腹の五ヶ所に聖痕を与えた、という奇蹟の瞬間を描いたもの。画面には天使も神々しい光もなく、ただフランチェスコが恍惚と立ちすくむ。執拗かつ克明な自然描写は、主役を埋没させんばかりだ。

さて、今年に入ってローマ教皇が交替した。全世界カトリック教徒十二億人の頂点に立ったアルゼンチン出身の新教皇が選んだ名前は、フランシスコ。もちろんこの聖フランチェスコ由来であり、貧しく虐げられた人々の味方になるとの決意の表明だろう。

＜出典：文芸春秋2013年6月号、中野京子「名画が語る西洋史」より＞